

内閣府
省信局

母辭

弔辞

いま凶ならずも佐竹次郎君の
急逝にあい、君の靈前に弔
辞を述ぶることは、まことに
感慨無量のものがあります。

君は山梨県に生れ、大正十
年東京大学経済学部を
卒業し、直ちに南朝鮮鉄
道株式会社に入社され、その

後日産生命、富国生命及
び昭和電工等々各社の社長と
して活躍、社業の隆昌に貢
献されたのであります。君は
又原子力産業会議理事
及び日本経営者団体常任
理事等の要職につき、その
豊富なる経験と高邁なる
識見とをもち、わが国産
業経済の発展に尽くされた
功績は極めて顕著なるもの

があります。

君と私とは互いに心から信

じ許し合つた友人であります

した。共に五黄の猿の同年

であり、私共同年者で組織

する五猿会において心おき

なく語り合つた間柄であり

ます。私はつい先日君に会

ましたが、その時強く私を

励した君の言葉は今なお

私の耳に残り、君の温顔は

私の目から消えておりませう。

いま君を失うことはまことに

とに寂莫の感、痛惜の念

にたえませんが、君の温情

は永くわれわれの心の中

にあつて、力強い指針とな

るであらうまことに。

希くは、君の靈安のため

眠らんとしよむ祈り、微

衷の一端を述べてお別れの

言葉としよむ。

昭和二十四年十月二十六日

友人代表

内閣総理大臣

岸 信介